唐詩鑑賞辞典

前野直彬編

東京堂出版

編者略歴
大正九年、東京に生まれる。
昭和二二年、東京大学卒。
名古屋大学講師、東京教育大学助教授を経て、現在、東京大学教授。
主著に『唐詩選』（岩波文庫・昭三七）、『六朝唐宋小説選』（平凡社・昭四三）、『唐代詩集』（平凡社・昭四五）などがある。
現住所―東京都豊島区西巣鴨一―三―一

唐詩鑑賞辞典

定価は箱またはカバーに表示してあります。

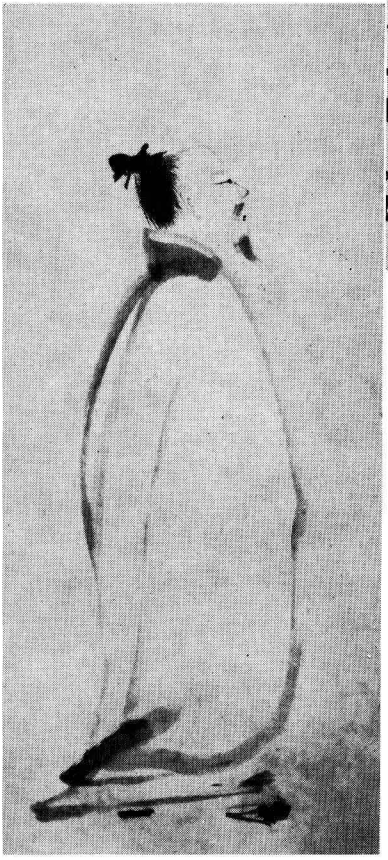
昭和四五年九月三〇日　初版発行
昭和五〇年一〇月一日　八版発行

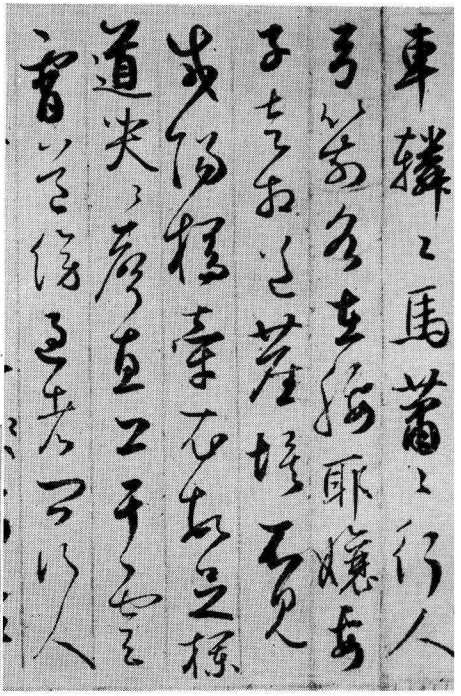
編者　前野直彬
発行者　岩出貞夫
印刷所　理想社印刷所
製本所　渡辺製本株式会社

発行所　株式会社　東京堂出版
東京都千代田区神田錦町三ノ五　（〒一〇一）
電話東京二九一局八二二六　振替東京二七〇

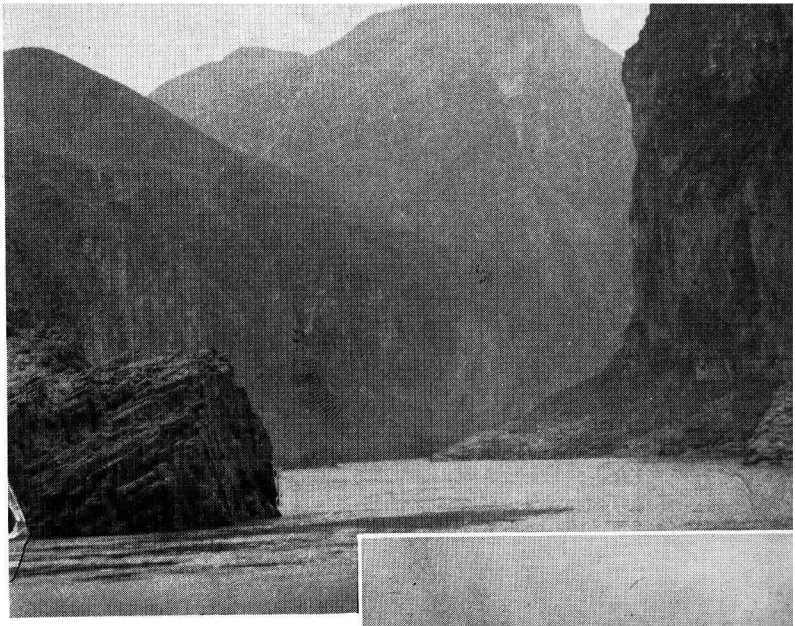
1598―145112―5164

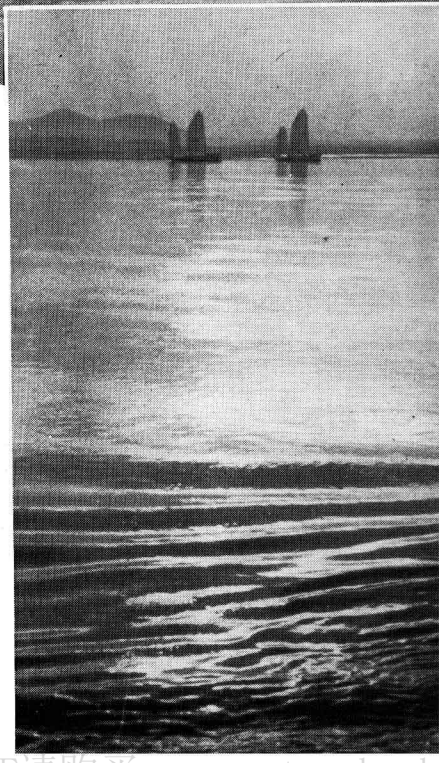
© Naoaki Maeno 1970





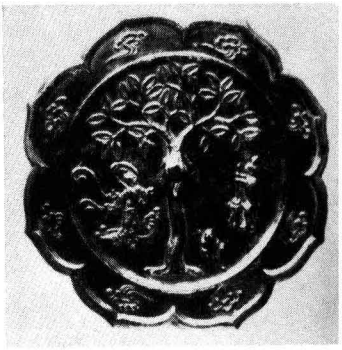
① 梁楷（宋）李白吟行図（左）
② 鮮于枢（元）唐詩巻一杜甫兵車行（右）





试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.c

③ 三峡（右ページ上）
④ 洞庭湖付近の長江（右ペー
⑤ 杜甫草堂の一隅四川省成都
（左ペー
⑥ 楊貴妃祠堂陝西省馬嵬
（左ペー



⑦ 夜光坯正倉院蔵紺瑠璃坯（右下）

⑧ 月宮図八稜鏡（右上）

⑨ 婦人俑（左）

詩人別詩題目次（作者五十音順）

韋応物（中唐）
鞏洛自り舟行して黄河に入る……一六
即事、府県の僚友に寄す……一四六
秋夜、丘二十二員外に寄す……一八四
滁州の西澗……

韋　荘（晩唐）
咸　通……二七
古別離……一八

于武陵（晩唐）
酒を勧む……一九

王　維（盛唐）
九月九日山中の兄弟を憶う……七一
元二の安西に使するを送る……八三
雑　詩……一三四
送　別……二三三
竹里館……二四二
使して塞上に至る……二七七
秘書晁監の日本国に還るを送る……三一五
輞川へ帰る作……三五九
鹿　柴……四〇九

王　翰（盛唐）
涼州詞……三九五

王　建（中唐）
十五夜、月を望む……一三九

王之渙（盛唐）
鸛鵲楼に登る……三六
涼州詞……三九七

王昌齢（盛唐）
出　塞……一五四
西宮春怨……二〇一
芙蓉楼にて辛漸を送る……三三四
旅　望……三九九

王　績（初唐）
野　望……三六五

汪　遵（晩唐）
長　城……二六五

王　勃（初唐）
滕王閣……二八五
杜少府の任に蜀州に之くを送る……二九五

王　湾（盛唐）
北固山の下に次る……三五〇

温庭筠（晩唐）
偶　遊……六九

故城曲……二四
商山の早行……一六八
蓮浦謠……四〇六
賈　至（盛唐）
西亭春望……二〇三
賀知章（盛唐）
郷に回りて偶ま書す……三七
賈　島（中唐）
暮に山村に過る……七三
桑乾を度る……三三
李疑が幽居に題す……三六九
韓　偓（晩唐）
五　更……一三
寒　山（□唐）
寒山詩……三四
韓　愈（中唐）
左遷せられて藍関に至り
姪孫湘に示す……一三
北極　李観に贈る……二四八
酔って東野を留む……三七九
落　歯……三八三
魏　徵（初唐）
述　懐……一四九
魚玄機（晩唐）
送　別……三三五
許　渾（晩唐）
咸陽城の東楼……四三
謝亭の送別……一三四
元　結（中唐）
賊退き官吏に示す……三三九
元　稹（中唐）
悲懐を遣る……三一二
楽天の江州司馬を授けられしを聞く……三六六
耿　湋（中唐）
秋　日……一四一
高　適（盛唐）
除夜の作……一八五
人日　杜二拾遺に寄す……一八八
董大に別る……二八九
高　駢（晩唐）
山亭夏日……二二九
呉　融（晩唐）
西陵夜居……二〇六
崔　顥（盛唐）
黄鶴楼……八八
長干行……二四六

崔国輔（盛唐）
長楽少年行……二七六
司空曙（中唐）
江村即事……九九
司空図（晩唐）
白菊雑書……三〇一
章碣（晩唐）
焚書坑……三三六
常建（盛唐）
破山寺後の禅院……三〇七
岑参（盛唐）
胡笳の歌　顔真卿の使して河隴に赴くを送る……一〇六
磧中の作……二二
巴南舟中……三二
沈佺期（初唐）
古意……八五
斉己（晩唐）
夜坐……三六三
銭起（中唐）
帰雁……四七
湘霊瑟を鼓す……一七四
宋之問（初唐）
登封に扈従する途中の作……二九三
山を下る歌……三六七
曹松（晩唐）
己亥の歳……四六
祖詠（盛唐）
終南に余雪を望む……一四二
蘇頲（初唐）
汾上にて秋に驚く……三三五
戴叔倫（中唐）
江郷にて故人偶たま客舎に集う……九一
湘南即事……一七三
張謂（中唐）
長安の主人の壁に題す……二四五
張説（初唐）
幽州新歳の作……三七〇
趙嘏（晩唐）
江楼にて感を書す……一〇三
長安秋望……二四三
張九齢（初唐）
鏡に照らして白髪を見る……二四
感遇……三三
張継（中唐）
楓橋夜泊……三三二

張祜（晩唐）
金山寺……六一
張若虚（初唐）
春江花月の夜……一五六
張籍（中唐）
秋思……一四〇
節婦吟……二二五
儲光羲（盛唐）
漢陽即事……四四
陳羽（中唐）
呉城覧古……二一七
陳子昂（初唐）
晩に楽郷県に次る……七四
峴山懐古……八〇
幽州の台に登る歌……三七二
鄭谷（晩唐）
鷓鴣……一三三
杜審言（初唐）
晉陵の陸丞の早春遊望に和す……一九七
杜甫（盛唐）
哀江頭……三
飲中八仙歌……八
衛八処士に贈る……一四
岳陽楼に登る……二五
羌村……五五
月夜……七
後出塞……九五
江村……九八
江南にて李亀年に逢う……一〇〇
秋興……一三五
春望……一六三
春夜雨を喜ぶ……一六五
蜀相……一七
石壕の吏……二〇七
絶句……二一三
絶句……二一四
登高……二八八
貧交行……三三一
兵車行……三三八
茅屋秋風の破る所と為る歌……三四五
李白を夢む……三九〇
旅夜、懐いを書す……四〇〇
杜牧（晩唐）
烏江亭に題す……一三
懐を遣る……二三
江南の春……一〇二

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

山　行……一三五
秦淮に泊す……一九九
宣州開元寺の水閣に題す……二一八
贈　別……二三七

裴　迪（中唐）

華子崗……二七

白居易（中唐）

王昭君……二〇
香爐峰下、新たに山居をトし、草堂初めて成り、偶たま東壁に題す……一〇四
山中にて元九に与うる書、因りて書後に題す……一二六
慈烏夜啼……一三〇
新豊の臂を折りし翁……一九一
村　夜……二三八
長恨歌……二四七
燕の詩、劉叟に示す……二八一
八月十五日の夜、禁中に独り直し、月に対して元九を憶う……三〇九
琵琶行、并びに序……三一〇
夜の砧を聞く……三八二

皮日休（晩唐）

春夕酒醒む……一六一

無名氏（　）

伊州歌……七

孟　郊（中唐）

峽　哀……一五〇
連州吟……四〇三

孟浩然（盛唐）

春　暁……一五五
張丞相が松滋江より東して渚宮に泊するに陪す……二六七
洞庭に臨みて張丞相に上る……二九〇

楊巨源（中唐）

折楊柳……二一七

楊　炯（初唐）

從軍行……一三七

駱賓王（初唐）

易水送別……一七
獄に在りて蟬を詠ず……一一〇

李　益（中唐）

暁角を聴く……一五四

李　華（盛唐）

春行して興を寄す……一六〇

李　賀（中唐）

雁門太守行……四一

秋　来……一四七
神絃曲……一八六
蘇小小の歌……二三二
長平の箭頭の歌……二七二

李咸用（晩唐）

江　行……九三

李　頎（盛唐）

魏万の京に之くを送る……四九

陸亀蒙（晩唐）

別　離……二四三

李商隠（晩唐）

錦　瑟……六二
常　娥……一六七
潭　州……二二八
無　題（昨夜の星辰昨夜の風）……三五二
無　題（颯颯たる東風細雨来る）……三五五
夜雨　北に寄す……二六一
揺　落……二七五
楽遊原……二七七

李　紳（中唐）

農を憫れむ……三〇〇

李　白（盛唐）

越中覧古……一八
汪倫に贈る……二一
峨眉山月の歌……二八
下邳の圯橋を経て張子房を懐う……二九
金陵の鳳凰台に登る……六七
月下独酌……七二
黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る……九〇
酒を把りて月に問う……二一〇
山中にて幽人と対酌す……二一七
山中問答……二一八
子夜呉歌……二二三
秋浦の歌……二四四
春夜、洛城に笛を聞く……二六六
将進酒……一七〇
蜀道難……一七九
清平調詞……二〇二
静夜思……二〇五
宣州謝朓楼にて校書叔雲に餞別す……二一〇
族叔刑部侍郎曄及び中書賈舎人至に陪して洞庭に遊ぶ……二二八
蘇台覧古……二二四
蘇　武……二三五
早に白帝城を発す……二七九
天門山を望む……二八四

独り敬亭山に坐す……三一九
友人を送る……三七三
廬山の瀑布を望む……四一〇
劉禹錫（中唐）
烏衣巷……一二
秋風引……一四三
石頭城……二一三
劉希夷（初唐）
白頭を悲しむ翁に代わる……三〇三
柳宗元（中唐）
漁　翁……五九
江　雪……九七
南磵中にて題す……二九七
柳州の城楼に登りて漳・汀・封・連の四州に寄す……三九三
郎士元（中唐）
張南史を送る……二七〇
盧　僕（初唐）
南楼望……二九九
盧　綸（中唐）
張僕射の「塞下の曲」に和す……二七五

唐詩鑑賞辞典

あ

哀江頭（あいこうとう）

杜甫（とほ）（盛唐）

（哀江頭）

少陵野老呑聲哭　少陵の野老　声を呑んで哭す
春日潛行曲江曲　春日　潛行す　曲江の曲
江頭宮殿鎖千門　江頭の宮殿　千門を鎖し
細柳新蒲爲誰綠　細柳　新蒲　誰が為にか緑なる
憶昔霓旌下南苑　憶う昔　霓旌の南苑に下りしを
苑中萬物生顏色　苑中の万物　顔色を生ず
昭陽殿裏第一人　昭陽殿裏　第一の人
同輦隨君侍君側　輦を同じうし　君に随って　君側に侍す
輦前才人帶弓箭　輦前の才人　弓箭を帯び
白馬嚼嚙黃金勒　白馬は嚼嚙す　黄金の勒
翻身向天仰射雲　身を翻えして　天に向かい仰いで雲を射る
一箭正墮雙飛翼　一箭　正に堕す　双飛翼
明眸皓齒今何在　明眸皓歯　今何くにか在る
血汙遊魂歸不得　血は遊魂を汙して帰り得ず
清渭東流劍閣深　清渭は東流し　剣閣は深く
去住彼此無消息　去住　彼此　消息無し
人生有情淚沾臆　人生　情有り　涙臆を沾おす
江水江花豈終極　江水　江花　豈に終極まらんや
黃昏胡騎塵滿城　黄昏　胡騎　塵　城に満つ
欲往城南忘城北　城南に往かんと欲して城北を忘る

【語釈】○哀江頭　「哀」はあわれを感じて悲しむこと。「江頭」は江のほとりの意で、ここでは、長安城の東南隅にある曲江のほとりをさす。○少陵　漢の宣帝（前七三―前四九在位）の皇后許后の陵墓。長安の南郊、杜陵（宣帝の陵墓）の東南にある。杜甫の先祖がここに住んでいたので、杜甫はここを自分の本籍地と称していた。○野老　官職を持たず、政治と無関係な老人。田舎じじい。杜甫自身をいう。○呑声哭　「哭」は大声をあげて泣くことで、特に人を哀悼するときなどには「哭」するのが作法とされた。ここはその大声を呑むようにして泣くという意味。大声に泣こうとしながら、悲しみに胸がつまって声にならない状態を言ったのであろう。また、長安を占領している叛乱軍に聞きとがめられまいとして用心したものとの解も成り立つ。○潛行　こっそり歩く。人目をしのんで歩く。○曲江　長安城の東南隅にあり、離宮のあった所。景色が良いので、春には長安の人々の行楽地となった。○曲　片すみの意。人目につかぬあたりとの意を含むであろう。○鎖千門　「鎖」は

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com